

複合交信かく乱剤によるスモモの害虫防除

福島県果樹試験場病理昆虫部
平成15年度試験研究成績書

1 部門名

果樹—スモモ—病虫害防除
分類コード 04—09—23000000

2 担当者

荒川昭弘・岡崎一博・阿部憲義

3 要旨

コンフューザーN(複合交信攪乱剤)を伊達郡保原町現地スモモほ場1.9haに200本／10a、国見町現地スモモほ場2.6haに150本／10aの割合で4月20日頃に処理した。対照区は交信攪乱剤無処理とし、両地域と試験区とを2km以上離して0.3ha設置した。

殺虫剤は対照区が7回散布したのに対して、コンフューザーN設置区は2回削減した。

- (1) 各区にナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイ、モモシンクイガ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキの性フェロモントラップを設置し、4月10日から9月25日までの各害虫の誘殺状況を1ヶ月間隔で調査した。その結果、処理区ではナシヒメシンクイの越冬世代成虫が150本／10a処理区で1頭誘殺されたのみであり、他の交信かく乱対象害虫の誘殺は認められなかった。一方、対照区ではナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイおよびリンゴコカクモンハマキの成虫が多数誘殺された。
- (2) 7月1日には1樹当たり100新梢の芯折れ被害数を調査した結果、対照区でのみ被害が認められた。8月8日および18日には100果中の被害果数を各区10樹について調査した結果、試験区では被害は見られず、対照区で2～10%の被害が見られた。なお、被害はいずれもスモモヒメシンクイによるものであった。
- (3) 150本／10a処理区でナシヒメシンクイの誘殺が見られたものの、果実被害が見られなかったことから、スモモへのコンフューザーNの処理は150本／10aでも有効であると考えられた。

4 その他の資料等

なし